

佳作

この世で尊敬できる人

鹿児島県 鹿児島市立春山小学校六年 和田 結衣

「生まれてきてくれてありがとう。」

私は、この言葉を母から言われた時、思わず涙を流してしまった。

私は、二〇〇七年八月二十九日生まれで、朝十一時ごろに生まれた。母は、私を生んだ後、血が大量に出てしまい、たくさんの輸血をしたそうだった。父も祖父も、母のおそう式まで考えたほどだったそうだ。けれど、母は医者に助けられて、一命をとりとめた。

母は、私を命がけて生んでくれた。私は、このことを知って、自分の命を大切にしなければと改めて感じた。

それから十二年後。私は六年生になった。母のこの苦しみは、今考えただけでも、心が苦しくなる。それを実際に経験した母が、すごいと思う。そんな

思いをして、私を生んでくれた母に、感謝している。

私は、よく母とニュースを見る。すると、自殺で亡くなったというニュースを見てしまった。私は、「こんなに母親がきつい思いをして、生んでくれたのに、生まれてくるときに死んじゃった子もいるのに、生きたいのに、病気や事故で、生きられなくなった人もいるのに」と思ってしまった。この大切な命を自らなくすのは、いけないと思う。このニュースを見て、自分の命を大切にしなければいけないと思いました。

この間、母から、

「お母さんがもし、死んでいたら、結衣は、今どこにいるんだろうね。」

と言われた。そうすれば、私は、家族みんなでくらすことはできなくなる。そして、私は、別の人にくらしていくことになる。そんなことを母と話しながら、母が生きていて良かった、と思った。

私は、この母の私を生むときの出来事を通して、将来の夢は、警察官になろうと思った。自殺しようとしている苦しい人を助けたり、悪い人をつかまえられるそんな警察官になりたい。父も警察官なので、一緒に働ける。この夢を叶えるために、今、剣道を

している。きつくて、たおれそうになる練習をだいたい毎日行って、がんばっている。だから、母に、大会で優勝して、メダルや賞状をわたしたい。そのためには、人よりももっと、練習をして、先生の教えを守る事が大事だと思うので、この二つを自分の頭の中に入れて練習していこうと思う。

そして、これから、自分の命も、他人の命も大事にしていきたいと思う。やっぱり、この世で一番尊敬しているのは、私の母だ。

尊敬している母をお手本にして、私も、母みたいな女の人になりたいと思っている。